中学校体育科における思考を促す球技指導

○道田 泰司

(琉球大学)

キーワード：批判的思考、中学校、体育

Ball game education to foster students' thinking in junior high school physical education

Yasushi MICHITA

(University of the Ryukyus)

Key Words: critical thinking, junior high school, physical education

現在、思考力の育成は重要である。しかし体育でここに重点を置きすぎると、活動に影響するため、現場ではそのバランスを考えるべく試行錯誤が続いていると小林ら(2016)は指摘している。他方、身体活動や技能習得に重点を置きすぎると、教師がねらいや指導内容を設定し、子どもたちは指示待ちになり、主体的に運動に取り組む姿勢を育成することができず、ジレンマを感じている体育科教員も少なくない。

本稿では、生徒が課題を見つけ、解決のために思考しながら技能を高めていくことを目指したサッカー学習を報告する。

方 法

対象授業 中学2年生対象のサッカー授業。授業者は、これまで生徒が考えようとしなかった授業を行ってきた反省から、生徒が考えることを重視した単元を構想・実施した。

実践の概要 1単元 10～11時間であった。男女とも2チームに分けた。第1時はウォーミングアップ後、ルール等の説明はせず、試合10分、作戦タイム5分、試合10分を行った。第2時は教室で行った。どんな授業にしたいか、イメージマップを作らせた。「連携プレー、みんなが積極的に助け合ってフォーメーション」「パスが続く。連携プレー、声の掛け合いで励まし合って勝利」「みんなが笑顔で楽しめる。ルールを守る。皆が意見を言い、振り返りを大切にすること。」などの意見が出された。次に、第一時の試合の様子を抜粋して見せた。ここでルールの解説を一部簡単に行っている。生徒は映像を見ながら、自分たちの長所と問題点をメモした。問題点は、女子はボールのところに団子状に集まってしまうこと、男子はパスが通らないことなどが挙げられていた。それからiPadを使い、教科書やWeb検索を通して、どういう練習をするか考えさせた。

第3時から、自分たちで決めた練習を10分程度行い、ゲームをし、また練習という流れで行われた。練習に時間をかけたいという要望が出た学級ではゲーム時間をなくすなど、授業内容は臨機応変に変えた。

最終回の前々時、体育館で、フットサルの学習を、ジグソー学習を交えて行った。狭いコートでプレーすることで、広がる必要性、進行方向に動きながらトラップする必要性などに気づいていた。最後の時間は、12分の前半後半で試合を行った。間に3～4分の作戦タイムを取った。

生徒は、毎時間の学習の記録を、「学習カード」に記録した。B4表裏1枚で全時間が書けるようになっていた。

結 果

最終時に書かれた「サッカーの授業を終えて感想」の記述を、1クラス(学習カードが提出された31人)分につ

いてKH coderを用いてテキストマイニングを行った。文を対象に、最小出現数5以上の67語について共起ネットワークを描画したところ、8つのグループが見いだされた(下図)。以下に記述例を挙げる(カギカッコは共起関係にある抽出語)。

1. 「自分」たちなりの「練習」法を積み重ねていくうちに「トラップ」も「出来る」ようになって「チーム」での連携プレーも出来るようになりました
2. ずっと「負けて」いたけど「展開」や「シュート」を工夫して、「最後」、「勝つ」ことが出来ました
3. 「チームワーク」も上がったから「良かった」です
4. 「自分」に合ったポジションや「課題」をみつめて、少しずつ「技術」が身についてきたと思いました。
5. 「仲間」と「協力」して、勝つための方法を「考えて」みんなで楽しむことが出来た
6. 「スポーツ」は「苦手」だけど、好きなスポーツが増えました
7. 「一番」「嬉し」かったのがチームの「団結」力が「深まった」ことです。
8. 最初は皆、サッカーに「積極」的ではなかったのですが、最後には、授業が始まる前に体操も終わっていて、かなり「成長」したなど感じました。

考 察

本授業は、自分たちで考えて練習し技能を高めていくことを意図して計画された。生徒の振り返りを見ると、各自の技量が向上し(1, 2)、団結が高まり(3, 7)、課題を見つけて考え(4, 5)、サッカーが好きになり(6)、成長した(8)様子が伺えた。それは、経験(失敗)から反省的に学ぶという批判的思考を促している(道田、投稿中)ということができよう。今後、授業のなかで各生徒がどのように考えどのように学んでいるか、詳細な分析を行う必要があるであろう。

引用文献

小林 稔・金星・藤田 勉・与儀幸朝・嘉数健悟・笹澤吉明・鈴木まゆ子 (2016).

中学校体育授業における「思考力・判断力の自己評価尺度」に関する信頼性と妥当性の検討 京都教育大学紀要, 128, 141-153.

道田泰司 (投稿中). 叡智としての批判的思考—その概念と育成—

*本研究はH28-H31 科研費(基盤C 16K04306 研究代表者:道田泰司)の助成を受けた。